

# 令和3年度 教育研究推進計画

令和3年4月1日 教務研究部

## 学校教育目標

- 小中一貫 教育目標 : 「自学自立」～自ら学び、考え、自立した行動ができる「きさ」の子ども の育成～
- 吉舎中学校教育目標 : 夢や志を持ち、心豊かに、自己新記録を目指す生徒の育成

## 1 研究主題

自己を見つめ、人としての生き方について考え、よりよく生きようとする力を育む道徳教育の創造  
～小・中をつなぐ主体的・対話的で深い学びの授業づくりと  
道徳学習プログラム「吉（よ）き舎（やど）りプログラム」を通して～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 児童生徒を支える地域実態

本中学校区では、小中一貫教育目標を「自ら学び 考え 自立した行動ができる『きさ』の子ども の育成」とし、平成30年度より研究教科を「特別の教科 道徳」とした。平成31年度から研究主題を「自己を見つめ、人としての生き方についての考え、よりよく生きようとする力を育む道徳教育の創造～小・中をつなぐ主体的・対話的で深い学びの授業づくりと道徳学習プログラム『吉（よ）き舎（やど）りプログラム』を通して～」と設定している。

本中学校区は地域資源を生かし、総合的な学習の時間を中心に郷土の自然や歴史、文化などを学び、地域の良さや課題を見つけ、自らの学びに変えている。また、校区内の日彰館高校の定例行事である、留学生を招いての「おもてなしプラン」や「ホストファミリー」の取組に小中学生が関わりをもっている。さらに、保育所や協力的な地域団体、保護者と共に、吉舎町全体で「きさ教育の日」等の諸行事に取り組んできた経緯がある（昨年度は中止）。地域の方々は、児童生徒を大切に思い、学校への協力を惜しまない状況であり、そのような中で、児童生徒は地域への愛着や、地域へ貢献しようとする意欲、誇りをもつようになっている。

### (2) 生徒の実態・昨年度の研究から

上記の研究主題の下で「道徳科」における授業改善に取り組み、意識調査を実施したところ、以下の通りであった。

#### 【令和2年度吉舎中学校生徒 意識調査の結果】

(%)

質問項目	肯定率 4月	肯定率 12月
道徳科の勉強はためになると思う	83	86
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	75	79
道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	73	86
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている	62	65
今住んでいる地域が好きだ	79	89

意識調査では、特に「友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」において、

13 ポイントの向上が見られた。吉舎中学校区授業モデル「**きさの未来**」の授業づくりと、吉舎版道徳ノート  
の活用により、自己を見つめ、友達や自分自身との対話を続けたことで肯定率が高まったと考える。

一方で、「勉強したことを自分の生活に生かしている」の肯定率は一昨年同様に低く、課題がみられる。  
行事等の体験活動や他教科との有機的な関連を生かした道徳学習プログラム「吉き舎りプログラム」の実  
践を進めながら、道徳科の授業で育てた道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を道徳的实践につなげてい  
きたい。さらに、学校での取組だけでなく、家庭での生活とつなげていくための保護者と連携した取組の  
工夫を行うことが必要である。

#### 【令和2年度吉舎中学校区児童生徒 i c h e c k の結果】

令和2年度の i c h e c k では、1・2年に共通して「友達の支え」「成功体験と自信」「充実感と向上  
心」「感動体験」「問題解決力」に課題が見られた。自らへの自信を高めるためには、自分のよさを発揮す  
る体験とそれを振り返り自己評価する機会、友達に認められる他者評価の機会が必要であると考え  
る。また、自分の思いが表現できる学級風土を作り、安心して自分の思いを伝え合い、受け入れてもら  
える人間関係作りも必要である。それらを土台とし、話し合う活動や書く活動など一人ひとりの感じ方  
や考え方を表現する機会を充実させることは、道徳科の授業の充実と児童の成長につながると考  
える。

以上の実態と課題を踏まえて、令和3年度の重点項目を「**A 自主、自律、自由と責任**」、「**B 友情、信  
頼**」、「**C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度**」と設定し、系統的で特色のある道徳教育を推  
進するとともに、重点的指導を工夫しながら、内容項目全体の効果的な指導が行えるようにする。

### 3 研究の概要

#### (1) 「考え・議論する道徳科」の実現

- ・主体的に自分との関わりで考え、多様な感じ方・考え方を交流することで、生き方について考  
えを深めることができる道徳科の授業づくり
  - ① 生徒の実態と発達段階に基づいた明確なねらいの設定
  - ② 考えさせたいことを明確にする教材分析と自己の生き方について考えを深める発問の工夫
  - ③ 他者と思いを伝え合い、多面的・多角的に考えていく中で道徳的価値の理解を一層深める「対  
話的な学び」の実現に向けた指導の工夫

#### (2) 体験と道徳科を関連付け、生き方を考えさせる道徳教育の実現

- ・体験活動や各教科、総合的な学習の時間、特別活動等を道徳科と関連付けた道徳学習プログラム  
「吉き舎りプログラム」の改善と実践
  - ① 「吉き舎りプログラム」の、より効果的な活用に向けた改善と実践
  - ② 日常での道徳的実践の指導と道徳科の授業の関連を図りながら、学校全体の教育活動を通し  
た道徳性を養う指導
  - ③ 地域資源を生かした授業づくりと教材開発

#### (3) 「特別の教科 道徳」の指導と評価の一体化

- ・道徳ノートを中心にした、認め、励ます評価の実現と、指導の改善・充実に生かす授業評価の実現
  - ① ルーブリック表の活用
  - ② 自己評価や他者評価等の生徒の成長につながる工夫
  - ③ 組織的、計画的な評価の推進

### 4 研究仮説と検証

#### 〈研究仮説〉

- 発達の段階をふまえ、考えを深めるゆさぶりや自分のこととして考える授業づくりを行えば、主体的  
に学び、生き方について深く考えることができるであろう。
- 地域学習との関連を図るプログラムを実施したり地域教材を学ばせたりすることで、人としての生き

方を考え、よりよく生きる力につながるであろう。

### 〈検証計画〉

○意識調査の実施（生徒・教職員）

【生徒】（ ）内はR2年度12月の肯定割合。

- 「道徳科では、自分のことを振り返りながら考えている」(79%)
- 「道徳科では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」(86%)
- 「道徳科で勉強したことを、自分の生活にいかしている」(65%)
- 「みんなで協力し合って、よりよい学級や学校をつくらうとしている」(92%)
- 「住んでいる地域が好きだ」(89%)  
の項目に肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 「自分にはよいところがあると思う」(61%)
- 「自分のよさがまわりの人から認められていると思う」(52%)  
の項目に肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

【教職員】

- 「道徳科では、生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている」(100%)
- 「道徳科では、生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている」(92%)
- 「道徳科では、『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえた、多様な指導方法の工夫を取り入れている」(83%)
- 「自校の道徳教育に関する研修は充実していると思う」(92%)  
の項目に肯定的に回答する教職員の割合を95%以上にする。

## 5 研修計画

- (1) 小中合同で授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導力向上を図る。
- (2) 総合単元的な道徳学習のプログラム作りや地域教材を作成し、学区で9年間が貫かれた道徳科の指導を確立する。
- (3) 小中高全校で資質・能力ルーブリックを作成し、評価における効果的な活用について研究を充実させる。

## 6 具体的な取組

月	実施内容	備考
4	事務局会 第1回吉舎中学校区道徳推進担当者会 第1回小中合同研修会（研究方針の確認）	
5	年度当初・意識調査（児童・生徒・教職員）	
6	★小中合同研修会・道徳授業研究(6/16 八幡小学校) 吉舎中学校区道徳推進担当者会	宮里教授指導
7	学期末・意識調査（児童・生徒・教職員） 吉舎中学校区道徳推進担当者会	
8	吉舎中学校区道徳推進担当者会	
9	★小中合同道徳授業研究(9/14 吉舎中学校) 吉舎中学校区道徳推進担当者会	宮里教授指導
10	★小中合同研修会・道徳授業研究(10/4 吉舎小学校) （R3年度は小中公開研究会はなし） 吉舎中学校区道徳推進担当者会	宮里教授指導

1 1	吉舎中学校区道徳推進担当者会	
1 2	学期末・意識調査（児童・生徒・教職員） 吉舎中学校区道徳推進担当者会	
1	★三次市主催道徳研修（授業研究）（1/28 吉舎中学校） 吉舎中学校区道徳推進担当者会	
2	年度末・意識調査（児童・生徒・教職員） 吉舎中学校区道徳推進担当者会 1年間の取組の検証とまとめ	
3	次年度に向けた計画の見直し・改善	